

# 算数科学習指導案

指導者：北山喜浩  
夏見和敏

1. 学年 第6学年（男子7名、女子5名 計12名）

2. 単元名 「ならしてくらべよう」

3. 単元の目標 平均の意味について理解するとともに、平均を用いて数量を表すことができるようにする。

4. 単元の観点別評価規準

〔算数への関心・意欲・態度〕

平均を用いる良さに気づき、身の回りにある事柄について統計的な考察をしたり、表現していこうとする。

〔数学的な考え方〕

「ならず」ことを通して数量を理想化して捉え、平均の意味について考える。  
平均の考えを用いて、身の回りにある事柄について統計的に考察することができる。

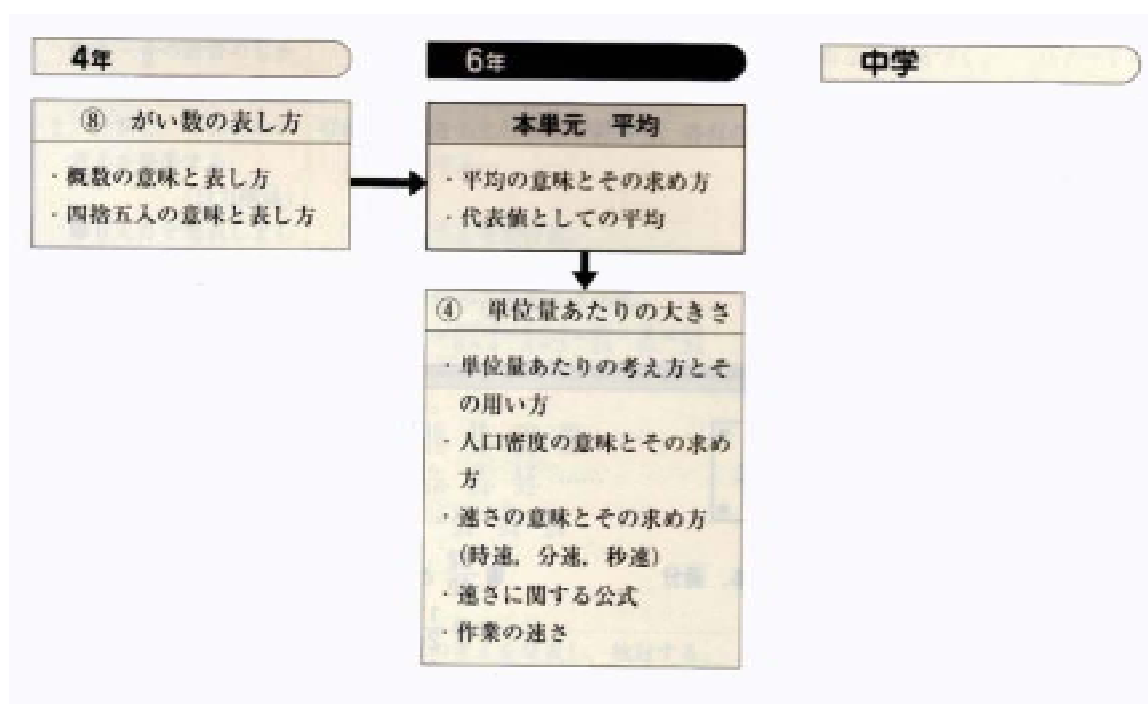
〔数量や図形についての表現処理〕

平均を式を用いて求めることができる。  
集団の特徴を表す値として平均を用いることができる。

〔数量や図形についての知識理解〕

平均の意味とそれを求める式、用いられる場面について理解する。

5. 内容の系統



## 6. 単元設定の理由

平均という言葉は、日常的な言葉として社会に出ており、児童も耳にしたり、あるいは、用いたりすることもしばしばである。しかし、平均の求め方を知っていても、その本質や定義についてきちんと捉えているわけではない。生活の中で平均を出すことによってどんな利点があるのかを考えさせたい。「平均」には、「ならした1あたり量」としての意味と「集団を特徴づける代表値」としての意味がある。この学年では、平均の定義と関わる前者を本格的に扱うが、生活の中でよく用いられる後者も前者と異なるものとして位置づけ、自分の身の回りの様々な事象に用いられることを学ぶとともに後の学習の素地としたい。

本学級の児童12名は、主として既習の「整数の性質を調べよう」「異分母の足し算引き算」において「なぜそうなるのか」について考える学習を行ってきた。展開に当たっては、常に疑問を持たせながら、その疑問を自分で解決していくこと、あるいはその過程で平均とはどのようなものであるのか、生活の中でどのようなときに用いれば有用であるのかについて考えさせ、気づかせたい。

## 7. 指導計画と評価計画（全7時間）

小単元	時	ねらい	学習活動	おもな評価規準
平均の意味と求め方	1 ・ 2	・平均の意味と求め方を理解する。	・コップに入った色水をならす方法を考える。	<b>考</b> 平均の求め方を具体物を元に考え説明することができる。 <b>知</b> 平均の意味や求め方を理解している。
			・平均の求め方をまとめ、平均を求める練習する。	<b>表</b> 色々な場合について平均を求めることができる。
	3	・平均から全体量を求める方法を理解する。	・牛の1ヶ月のえさの量の平均から1年間ではどれだけの量になるか考える ・「平均」から「全体量」を求める方法をまとめ、その練習をする。	<b>関</b> 日常生活の中での事象に平均の考えを用いようとする。 <b>表</b> 平均から全体の合計を求めることができる
	4	・数値に0が入る場合や平均の数値が小数になる場合の平均の求め方を理解する。	・牧場見学に来た人の1日の平均人数を求める。 (0人の場合や人数なのに商が小数になる場合) ・数値に0が入る場合や平均の数値が小数になる場合の平均を求める練習をする。	<b>表</b> 0を含む場合も平均の考えに基づいて平均を求めることができる。 <b>知</b> 分離量の場合も平均の値は小数で表しても良いことを理解している
代表値としての平均	1	・代表値としての平均の意味を理解する。	・木の数の異なる梅畑の梅の取れ高を比べるにはどうしたらいいかを考える ・2つの集団を比べるのにその平均で比べる場合があることを知る。	<b>知</b> 集団を代表する値として平均を用いると、他の集団と比較できることを理解している。
まとめ	1 ・ 2	・生活の中の事象を平均を用いて表すことで、理解を深め、興味を広げる。	・自分の生活の中での色々な平均を求め、みんなに知らせる。	<b>関</b> 既習の平均を活用して問題を解決しようとしている。

## 8 . 本時の指導（ 2 時間扱い）

### 本時の目標

生活の中の事象を平均を用いて表すことで理解を深め、興味を広げる。

### 観点別評価基準

〔算数への関心・意欲・態度〕

既習の平均を活用して問題を解決しようとしている。